

なぜ組織はやりたくもないことを やってしまうのか？

地域共創学部
地域づくり学科
准教授

真木 圭亮



研究シーズの紹介

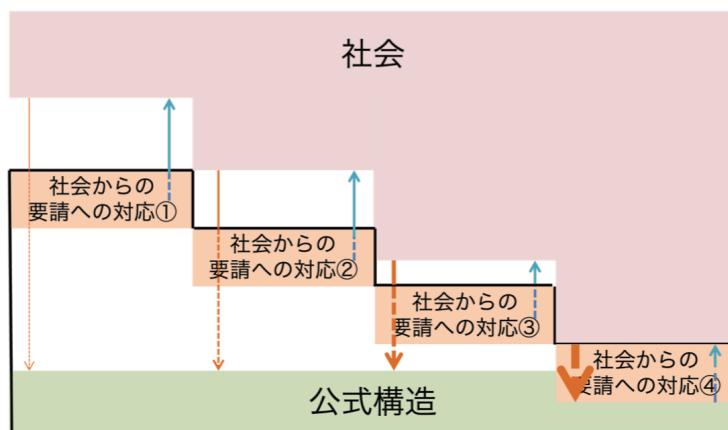
組織に対する社会からの要請は強まるばかりです。これらへの対応は重要ですが、組織によっては必ずしもその対応の優先度が高くなかったり、対応することで組織の効率性が阻害されることがあります。そのような場合、組織は自身の中核部分と要請への対応を実質的には切り離す、専門的には「脱連結」と呼ばれる行為を行うことで中核部分への悪影響を防

ぎます。しかし、この脱連結はいつでもうまくいくわけではありません。脱連結するはずが、なぜか「本気で取り組む」ことになってしまうことがあります。このようなことが起きてしまうメカニズムを理解した上で、社会からの要請への適切な対応を検討していくのが本研究の目的です。



脱連結がうまくいかない メカニズム

- いつの間にかやりたくないことに本気で取り組むことになってしまうメカニズムを理解できるようになります。



- 社会からの期待に対して脱連結的に対応することで、一時的にはやり過ぎることができる
- しかし、社会からの期待に適切に（＝社会からの期待通りに）応えようと、社会はその組織に対する期待を増幅させていく
- これを繰り返した結果、公式構造とは脱連結していたはずの活動を、公式構造と連結せざるを得なくなる

期待される活用シーン

- 気がついたらやらなくてもいいことをやっていないだろうか？



やらなくてもいいことをやってしまうメカニズムがわかります。

- 本当はやらなくてもいいことを社会から期待されてしまったらどうしたらいいんだろう？



組織的な優先度が低い取り組みへの社会的な期待に対してどのように対応すればいいか検討できます。